

## 町づくり研究所 2022 年度までの活動より

上野正也\*\* 山家京子\* 内田青蔵\* 曾我部昌史\* 中井邦夫\* 六角美瑠\* 須崎文代\*\*

吉岡寛之\*\*\* 鈴木成也\*\*\*\* 石田敏明\*\*\*\*\* 重村力\*\*\*\*\* 丸山美紀\*\*\*\*\* 長谷川明\*\*\*\*\*

### Report from the Activities of Town Planning Institute until 2022

Masaya Ueno\*\* Kyoko YAMAGA\* Seizo UCHIDA\* Masashi SOGABE\* Kunio NAKAI\* Miru Rokkaku\* Fumiyo SUZAKI\*\*

Hiroyuki YOSHIOKA\*\*\* Naruya SUZUKI\*\*\*\* Toshiaki ISHIDA\*\*\*\*\* Tsutomu SHIGEMURA\*\*\*\*\* Miki Maruyama\*\*\*\*\* Akira Hasegawa\*\*\*\*\*

#### 1. 八丁驛駅前空地のデザイン検討／上野正也・山家京子

本稿は、川崎市内の京急線八丁驛駅前に位置する空地（民有）の活用検討の一環として実施した空地のデザイン検討について、そのプロセスを報告するものである。なお、当該取組は、神奈川大学、京急電鉄、川崎市による産学官連携協定に基づく活動である<sup>注1</sup>。

#### 2. 過去の検討プロセス

筆者らはこれまで、空地の活用検討として、3 回の実験的な活用を通じて当該敷地に求められる機能や協力者、地域内におけるシーズの把握を進めてきた。そこでは、各回テーマ及びターゲット、プログラム、空間・レイアウトを検証項目としてあらかじめ定め、それらを検証する形とした。各回の概要を表1にまとめる。

表1 過去の検討

項目	第1回 チョークアートイベント	第2回 SPORTS & CAFE	第3回 まちかどOPEN!
実施日時	2019年2月3日(日) 11:30-16:00	2019年4月7日(日) 12:00-20:00	1日目: 2019年7月19日(金) 7:00-21:00 2日目: 2019年7月20日(土) 7:00-21:00
参加者数	293名	171名	417名
ターゲット	・親子,家族での参加(グループ)	・運動系プログラムに興味のある個人 ・運動系コミュニティなどのグループ	・各プログラムに関心を有する個人・グループ ・通勤等の行き帰りに立ち寄る個人・グループ
プログラム	アート(チョークアート) [飲み物の無料提供]	スポーツ(ヨガ,ウォーキング・ランニング講座), カフェ(キッチンカー),小物作りワークショップ	1日目: カフェ,演奏会,傘の飾り付けワークショップ,水遊び(幼児用ゴムボールの設置) 2日目: カフェ,演奏会,エコバックづくりワークショップ,歴史まち歩き,飲食出店
ネットワーク	チョーク製造関連の市内業者	近隣のイベント,カフェ事業者, ヨガインストラクター	カフェ事業者,クリエイターグループ,沿線飲食事業者,演奏家(市内大学生),歴史市民団体
スペース	全体的に広場として利用。敷地周縁部に休憩スペースとしてベンチ等を配置	広場空間とWSスペースに分ける。また、入口付近にカフェキッチンカーを配置	線路に沿ってリニアに建屋部分を配置し、歩道側に広場空間を配置

\*教授 建築学部建築学科

Professor, Dept. of Arch., Fac. of Arch. & Bldg. Eng.

\*\*准教授 建築学部建築学科

Associate Professor, Dept. of Arch., Fac. of Arch. & Bldg. Eng.

\*\*\*特別助教 建築学部建築学科

Assistant Professor, Dept. of Arch., Fac. of Arch. & Bldg. Eng.

\*\*\*\*特別助手 建築学部建築学科

Research Associate, Dept. of Arch., Fac. of Arch. & Bldg. Eng.

\*\*\*\*\*客員教授 工学研究所

Guest Professor, Research Institute for Engineering

\*\*\*\*\*客員研究員 工学研究所

Guest Research Fellow, Research Institute for Engineering

\*\*\*\*\*特別研究員 工学研究所

Research Fellow, Research Institute for Engineering



図1 実験的活用の様子

以上の検討に併せて駅周辺に求められる機能や当該活動に対する評価をアンケート調査から把握した。そこでは「カフェなどの飲食、子供が集える空間(遊び場を含む)」といった機能が求められていることがわかった。また、これら実験的活用は概ね評価された。

#### 3. デザイン検討

以上の取組を踏まえて、空地のデザインについて、学生が中心となって検討を行った。なお、検討に先立って産学官連携体にて条件を整理した。そこでは、公共空間の質向上に有用な手法である「Lighter Quicker Cheaper(以下、LQC)」という考え方<sup>注2</sup>を用いて当該空地の整備方針を以下のように整理した。

- ・カフェ等の機能はキッチンカーを配置することで充足する。
  - ・施設等の建築は整備せず、全体を広場の空間として仮設的な整備とする。
  - ・当該空地にて成り立つ事業や空間デザインの有用性・妥当性を把握するため、概ね1年単位で実験的活用を行う。
- これらを踏まえ次節に示すデザイン案を作成した。

##### 3-1. デザイン案の概要

LQC の考えに基づき、路面への塗装とセルフビルドによるストリートファニチャーの設置を共通に、3つのデザイン案を作成した。案1: まちの記憶を継承するリボン広場

敷地がもつ歪な形状に対して曲線を用いることで、広場内を緩やかな境界で分け、人の流れを誘導する提案。曲線に囲われた内側は、ひとまとまりの領域を成し、人が集まるようなイベントに対応することができると思定した(図2)。



図2 まちの記憶を継承するリボン広場 デザイン図

案2：人を惹きつける線路広場

線路をモチーフとして、敷地内に真っ直ぐな線の塗装を施す提案である。「芭蕉の句碑(図面左側)と京急八丁畷駅(図面右側)を繋ぐ道」とそれに交差する線路を配置している。これら線路に仕切られた場所に交流スペースを設けている(図3)。

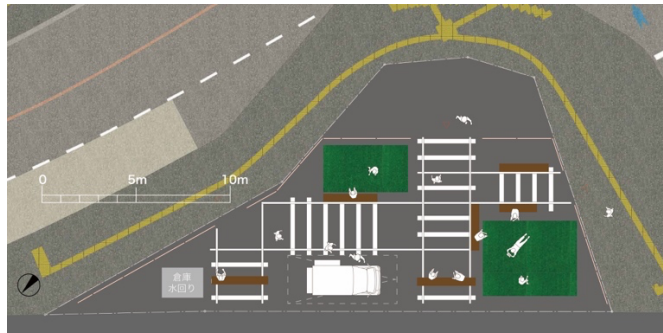


図3 人を惹きつける線路広場 デザイン図

案3：点の密度で変化する水玉広場

敷地内に点を用いて疎密を作り、利用者が場所を選択できる小さな広場を作ることで、多様な活動が展開できることを目指している。また、大きい円から小さい円へとサイズがグラデーションになるように配置を行うことで、疎と密の空間が緩やかにつながるよう設計している(図4)。

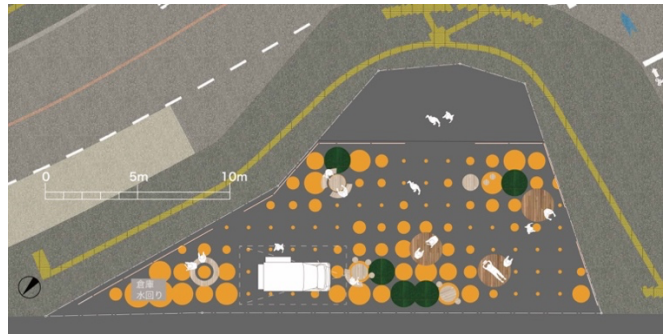


図4 点の密度で変化する水玉広場 デザイン図

3-2. デザイン案に対する意向の把握

学生が検討した3つのデザイン案に対する意向を把握するイベントを実施した。各案のデザインがわかるよう、塗装面を紙に出力したモックアップを用意し敷地に配置した。そして、イベント来場者及び敷地周辺にきた来街者を対象に、投票形式で意向を集めた。

なお、当該イベントは、地域住民組織の川崎区盛り上げ隊が主

催すイベント「川崎盛盛祭(もりもりさい)」と連動する形で企画した。概要及び投票結果を表2に示す。また、計画者側の振り返りとして、評価点及び改善点をまとめた(表3)。

表2 イベント概要

実施日	モックアップを敷地に配置した様子
2022年3月26日(土) 10:30~15:00	
案に対する投票結果 リボン案・・・32票 線路案・・・24票 水玉案・・・16票 (総数：72票)	

表3 評価点及び改善点

リボン案の評価点及び改善点
<input type="checkbox"/> 良かった点 ・丸みを帯びた柔らかいデザインは好印象だった。 ・動線の自由度が高く子供が線上を歩き、走り回る様子が見られた。 ・敷地の形との相性が良く、周辺と馴染む。
<input type="checkbox"/> 改善が必要な点 ・色味が薄く、電車や歩いて来た時に、目に止まりにくい。印象が弱い。 ・リボン、水玉、芝と要素があるものの密度感が低く寂しい箇所がある。 ・中央の芝生は使いづらく、キッチンカーを想定すると違和感になる。
線路案の評価点及び改善点
<input type="checkbox"/> 良かった点 ・動線が明確で、線路の上を歩くと駅や通りと視線が繋がる。 ・広場全体に様々な居場所が点在し、複数の活動を同時に受け止められる。 ・馴染みやすいデザインのため、子どもが遊びやすい。
<input type="checkbox"/> 改善が必要な点 ・横断歩道との見間違い。 ・キッチンカーを配置する場所の広さの確認と、それに伴う線路幅の再検討。
水玉案の評価点及び改善点
<input type="checkbox"/> 良かった点 ・水玉模様とオレンジの色味が行人の目を引くデザインとなっていた。 ・水玉模様がファニーチャーの配置のガイドとなり、居場所をつくっていた。
<input type="checkbox"/> 改善が必要な点 ・水玉が重なる部分が多く、アイレベルからだ居場所の曖昧さが目立った。 ・現状、芝生や水玉に合ったファニーチャーがないため使いづらい。

4. デザインの選定と今後の展開

以上の検討・検証に加えて、産学官連携体ではキッチンカー事業者や川崎市内で活動する個人・団体等へのヒアリングを実施し、当該空地の活用方法についてイメージを共有した。それらを踏まえ、キッチンカーの複数配置が路面デザインと干渉しないことや、複数同時に活動を許容できることが強みとなる「線路案」を当該空地のデザインに定め、具体的な広場計画を実施することとなった。

今後は、広場空間として活用できるよう、詳細な仕様の検討を行いながら、当該場所を活用する事業者等との意見交換を通じて、開設へと繋げていく。

(補註)

注1 川崎市域の京急沿線・駅を中心としたまちの活性化・将来ビジョン形成に寄与する活動を行うことを目的として、2018年6月15日に協定を締結。

注2 プレイスメイキングを実践する団体 Project for Public Spaces が提唱する試行型計画手法。低リスク・低予算かつ素早く計画を実行することで効果的な変化を生み出そうとするもの。

(参考文献)

1) 上野正也,山家京子「民有空地の活用検討プロセスに関する実践的研究 -川崎市八丁畷駅前空地における実験的取組みを事例として-」日本建築学会技術報告集第26巻64号,1173-1178,2020.10